

事項	無加温ハウス栽培向けぶどう試作品種「シャインマスカット」のかすり症は被袋により軽減できる		
ねらい	「シャインマスカット」は白色品種であり、無袋栽培ではかすり症による品質低下が問題となる。そこで、被袋の有無や袋の色について検討したところ、被袋によりかすり症を軽減できることが明らかとなったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 かすり症の発生程度及び発生果率は、袋の色にかかわらず被袋により軽減される。</p> <p>2 被袋は無加温ハウス栽培では7月下旬～8月上旬に行い、袋は収穫時まではずさない。</p>		
期待される効果	ぶどう「シャインマスカット」の高品質生産につながる。		
利用上の注意事項	病虫害防除は適正に行い、被袋は摘粒がすんだ後、果粒軟化期頃までに薬剤を散布をしてから行う。		
問い合わせ先(電話番号)	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成25年度 試験研究成績概要集 (特産果樹) (りんご研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 被袋の有無と袋色の違いが果実品質に及ぼす影響 (平成25年 青森りんご研県南果樹)

被袋の有無(袋色)	調査 果房数	果房重(g)	糖度(%)	酸度(%)	果粒数/房	かすり症	
						発生程度(0~3)	発生果粒率(%)
有袋(青)	6	368	19.3	0.31	42.0	0.2 a	1.7 a
有袋(緑)	6	385	19.9	0.28	42.2	0.7 a	8.3 a
有袋(白)	6	401	19.0	0.32	42.0	0.5 a	5.0 a
無袋	6	337	19.1	0.29	40.0	2.8 b	65.0 b
有意性	-	ns	ns	ns	-	**	**

- (注) 1 無加温ハウス栽培、被覆は3月22日、垣根仕立て、長梢剪定、樹齢は5年生。  
 2 満開日は6月21日、被袋は8月2日、収穫は10月15日。  
 3 調査は1樹から各6房について行った。糖度及び酸度は各房5粒を搾汁して測定した。  
 4 かすり症の発生程度は、房中で最も問題となる果粒を写真の指数で評価した6房の平均。また、発生果粒率は全果粒に対する発生した果粒の割合。  
 5 有意性はTukeyの多重比較検定による。nsは有意差なし、\*\*は1%水準で有意差あり。

かすり症の発生程度



0  
なし

1  
わずかに薄く見られる  
(商品価値低下)

2  
わずかに濃く見られる  
(商品価値著しく低下)

3  
甚だしく見られる  
(商品価値なし)